

かがやく

第3号

2006. 3. 10発行

発行者

ひたちなか市

企画部女性・国際課

ひたちなか市東石川2-10-1

029-273-0111 (内1321)

男女がお互いを対等なパートナーとして認め合い、共に参画しながら築いていくのが男女共同参画社会です。そして、一人ひとりがその個性と能力を發揮することができる生き方を可能にする社会でもあります。



ほしいも干し場で作業する飛田勝治さん・裕子さんご夫妻。笑顔があふれる二人です。

〈特集〉

男ひとと女ひと

支え合って

少子化が社会問題として取上げられて久しくなりますが、予想を上回る出生率の低下と、2年早く「人口減少社会」に突入したことに、多くの人が危機感を募らせています。その解決のための方策の一つが男女共同参画の推進であり、男性も女性も仕事と家庭が両立できる環境づくりが求められています。

今、「支え合いのこころ」が再び地域を動かしています。老若男女を問わず、地域の人々が共に参画して、子育てや高齢者に対して支援をしながら地域づくりを進めています。

この「支え合いのこころ」を「男だから」「女だから」にとらわれることなく、地域社会、家庭、職場で持ちたいものです。そしてお互いの個性を認め合いながら「自分ができること」あなたにしかできないこと」をやってみてはいかががでしょうか。

今回の「かがやく」は、様々な場面での支え合い・パートナーシップについてのインタビュー記事を特集しました。

インタビュー

支え合い 素敵なパートナーシップ

職場のパートナーシップ 志は同じ

水戸総合病院には、現在3名の男性看護師が勤務しています。浦川哲司さんは、看護師歴8年目、看護主任として活躍されています。

「看護は女性の仕事のように考えられてきたので『女性の多い職場で大変でしょう!』とよく言われるのですが、病院スタッフは、医師、検査技師、薬剤師など、男女の別なく働いています。私たち看護に携わる者は、『患者さんのために快適なサービスを提供する』という、同じ志(使命感)を持っています。大切なのは、人間対人間、心と心で、男だから、女だから、とは全く関係ないと思っています。」

「患者さんから、『男性看護師はイヤ』と言われることはないですか。」という質問に対し上司の大山看護部長は、「前もって、患者さんへの説明、



株式会社製作所 水戸総合病院
看護師 浦川 哲司さん

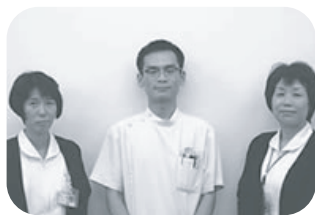
夢を共有

家族みんなで楽しく農業!

配慮はしていますので、トラブルはありませぬ。身体を支える際に力があるので安心するという患者さんもいます。男性なりの優しさ、思いやり、冷静な判断には教えられることが多々あります。浦川主任は、若い看護師たちにとって兄のような存在で、アットホームな職場にしてくれています。」

浦川さんは、2歳児のお父さんです。家庭では父親、母親の役割を大事に家事・育児を分担しているとのこと。

ほしいも村飛田農園を営んでいる飛田さんご夫妻を訪問しました。夫の勝治さんは認定農業者、妻の裕子さんは女性農業士であり、農業の担い手として活躍されています。嫁いで初めて農業に携わったという裕子さんに、パートナーとしてのお話を伺いました。
「初めは何もわからず、夫の後についていくのがやっとでした。農作業に慣れる頃から、夫とは、仕事のことや将来のことなど何でも話し合い、夢を共有するようになっていました。家族



大山さん 浦川さん 荒木さん

の支援が必要ですので、男性看護師には、その長所を活かして増えたいと思っています。」と強調して話されました。(郡司 記)

同席した荒木総看護部長は、「結婚や出産を理由に離職する看護師が多く、全国的にも看護師不足は慢性化した問題です。働き続けるためには、看護師というライセンスの重みを多くの方に理解して頂き、家庭や地域、行政から

家族経営協定

家族経営協定とは、農業を担っている家族一人ひとりが経営に参画し、経営方針の決定、役割分担、労働時間と休日、給料の支払い等を家族で話し合い、家族間のルールを文書にして取り決めたものです。自営業の分野における男女共同参画を推進するための施策の一つとして家族経営協定の普及に向けて取り組んでいます。

農業についての研修を受けるためにヨーロッパに行きました。美味しいほいもづくりに意欲的に取り組まれており、農業へかける熱い思いが感じられました。

お互いを尊敬し、信頼し、よく話し合うことにより、素晴らしいほいも農家を営まれているお二人。これからも、「特産品のほいもを大切に、楽しく作っていきたい」と明るい笑顔で抱負を語ってくれました。(牛久保 記)



笑顔で話す
飛田 裕子さん

「継続は力なり」女性起業家

1988年に起業した鳴原育子なまはらさんは、バブル崩壊の低迷期を乗り越え、現在は最先端のWebシステムソリューションや、列車運行システム、医療システムを手がけるソフト会社の代表取締役として活躍されています。

*当初、女ということで営業では苦労しました。打開策として年上の男性を営業に採用するなどの組織づくりをしました。18年続けてきた今は、会社としての信用も出来、社長が女だ男だということとはほとんど関係なくなりました。

二人の子どもは現在、大学生と中学生です。家事や子育てについては、夫や親の協力を得ながらやっています。仕事と家庭を両立させるポイントは、できることとできないことを分け協力者に任せることだと思います。



インターゾシオ システム株式会社
代表取締役 鳴原 育子さん

趣味はコーラスで、『あひる会』に所属し、継続してできる時に集中して練習に参加するようにしています。仕事と家庭と趣味とで優先順位をつけてやってきましたし、それが許される環境にあったことが長く続けてこられたコツだと思います。

21世紀は女性の時代だと思います。男女共同参画について、男性も頭ではわかっているのですが、現実として受け入れるのが難しいのではないのでしょうか。女性も権利だけを主張してはいけません。まずは女性自身が社会進出することです。一生懸命やっていると周りの人が助けてくれるようになります。

最後に、起業を目指している女性へ一言。今は資本金1円あれば起業できる時代です。ただ、事業を継続していくのに必要なことは、数字に強くなること。特に決算書が読めること。それと、その事業を長く続けられるようなビジネスプランを立てることも大事です。これらのことをアドバイスとして申し上げますね。

* * *

鳴原さんの信念は「継続は力なり」ということです。その秘訣はメリハリをつけた気持ちの切り換えとねばり強さにあるのだと感じさせるお話でした。

(中村 記)

男女共同参画強調月間講演会 ハーモニーひたちなかフォーラム2005

「男（ひと）と女（ひと）のいい関係」



笑いを交えて話す瀬地山さん

瀬地山 角さん（東京大学助教授）を講師に、12月11日（日）、ワークプラザ勝田において講演会を開催しました。瀬地山さんは2児の父。講演会当日には11ヶ月のお子さんを連れていらつしやいました。お子さんをあやす姿から積極的に育児をしている様子が伝わってきました。

今日の講演では、専業主婦と現在の社会保険制度、男の自立・女の自立を話されました。その中から、労働力の再生産について紹介します。

*「子育て支援」を植林に置き換えて考えてみてください。植林をしない林業者は植林コストはかかりませんが、新たな森林を育てることはできません。伐採のみをしていると

企業にとって子育て支援をすることは、一時的に見るとコスト高となるかもしれませんが、私たちが消費者として、植林をしない林業者の安い木を買うより、高くても植林をする林業者の木を買うようにしなければなりません。そのことを通じて少子化を防ぐコストを払っているのです。

一方、植林をする林業者は植林コストはかかりませんが、新たな樹木が育ちます。これが「子ども」であり「子育て」になります。

樹木は減り続けます。これが「少子化現象」になります。

これから、男性も女性も子育てをしながら働き続けることができる環境を整えていくことが必要不可欠だと再認識させられました。



熱心に聞き入るみなさん

男女共同参画センター

☆女性のための相談窓口

DVひとりで悩まないで！！

DVやストーカーなどの暴力や家庭の問題など、
私たち啓発相談員がサポートします。

相談専用電話 **029-274-3002**

(月～金曜 9時～16時30分まで)

☆男女共生セミナー開催

男性と女性のよりよい関係を築くための
各種講座を開催しています。

★いろいろなセミナーを企画しています。

詳しくは市報でお知らせいたします。

★託児あり(要予約)

☆図書の貸し出し

女性学や心理学などの新刊を
用意しています。

詳しくは啓発相談員に

お尋ねください。



☆研修室などを利用できます。

研修室1(35名まで) 研修室2(10名程度)

夜や土・日曜・祝日も利用できます。

申し込みはセンターへ

電話 **029-354-0167**

(月～金曜 8時30分～17時まで)



※エンパワーメント・カ
レッジ受講がきっかけで、
編集に参加しました。縁
は大切にしたいと思うこ
のころです。(M・N)

※自立した夫婦・親子関
係を築いていくには、個
々の能力を正當に評価し
てくれる職場環境と家族
のコミュニケーションが
充分にとれる社会環境が
必要であると思いました。
(R・G)

※様々な形のパートナー
シップ。示唆に富むお話
多くの方との出会い。貴
重な体験させて頂きまし
た。感謝。(I・U)

◆◆編集後記◆◆

☆平成17年度男女共同参画強調月間「一行詩・川柳・標語」入選作品!

最優秀作 「男女共同 個性を活かす 住みよい社会」

優秀作 「助け合い 認め合えれば 皆 笑顔」

「支え合い 子育て終えて 共白髪」

佳作 「さあ出番!男も女も意識せず 男女共同参画社会」

「お互いを尊重し支え合い みんなで伸ばそう 男女共同参画を」

「続けたら? オレが育児 取るからさ。」

「君と僕 できることから始めよう。未来に夢が翔く世界」

「むずかしくないよ 参画社会 男(ひと)と女(ひと)の認め合い」

平野 肇

佐藤 智子

天野 幸治

鈴木 信行

田所 一男

寺山 幸宏

小室 剛

小坪 良子
(敬称略)

*男女共同参画強調月間事業の一環として「一行詩・川柳・標語」を募集しました。

☆みなさんの活動を応援します。

市民グループや1人ひとりの活動をサポート
しています。